

愛知特別支援教育研究会会報 第11号

事務局：愛知県立大学 田中良三研究室 〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3
☎ 0561-76-8713 tanaka@ews.aichi-pu.ac.jp

愛知特別支援教育研究会 H24 第7回定期総会特集

5月12日（土）ウインク愛知において、7度目の定期総会を開くことができました。大変多くの方々に参加していただき、無事に終えることができました。提案された議題につきましては、総会においてすべて承認されました。また、その後の講演会では、花熊 暁先生の実践を踏まえた熱弁に、明日からの希望を感じさせられました。

「愛知特別支援教育研究会の更なる発展を願って」

前会長 神谷 育司

SENSの会愛知支部・愛知特別支援教育研究会も設立から満6年が経過しました。特別支援教育士（SENS）の方は特別支援教育の推進に対して、バイオニヤとして、子ども達のニーズに対応した適切な教育的支援がいかにしたら可能なのか、日々の教育実践の場での指導に、常に努力を傾倒されている事と思います。



会の発足した時点でのSENSの有資格者は35名でした。総会の度ごとに皆さんに語りかけたことは、特別支援教育の理念を体現するバイオニヤとして活躍し、一人でも多くの方がこの会に参加しその輪を広げることの願でした。2011年の時点で県内のSENSの有資格者は72名になりました。当初より二倍以上増えましたが、しかし、有資格者でもこの会に参加しない方がかなりの数にのぼります。会の設立趣旨は特別支援教育に深い関心を寄せ、専門的知識・技能の向上を図り、障害の多様化に対応しての幅広い技能を求め研鑽の機会を共有することにありました。でも、その趣旨は浸透、反映せず、まだ道半ばの状態です。

この会はあなた方お一人おひとりの会です、誰の会でもありません、お一人おひとりの会であることを自覚し、そして、そのお一人おひとりの力が結集していくことで会が発展し、ひいては子ども達に幸を齎すことになるのです。会は一部の人間の恣意によって動くものではありません。人ごとと考えず意欲的に会のあるべき方向性に皆さんお一人おひとりが意を注いでください。

特殊教育から、特別支援教育への変革は一つの時代的なエポックです。特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒が在籍する全ての学校で適切な指導が実施されねばなりません。教育は教師と子どもとの人を介しての交互作用の中で展開していくものです。皆さんには、その充実が求められています。今後、会がより一層発展し、愛知の特別支援教育がより実り豊かなものになることを切望してやみません。

「地域に根ざす特別支援教育の実践・研究の充実・発展のために」

会長 田中 良三

このたび、神谷育司先生（名城大学名誉教授）の後を受け、私が会長を引き継ぐことになりました。神谷先生には、引き続き、顧問として会のためにご尽力をいただきます。

私は、当初、障害の重い子どもの学校教育と福祉（卒業後の施設づくり）に関わり、やがて、全国に先駆け、発達障がい児の学校づくり（見晴台学園の創設と実践研究）に取り組んできました。日本LD学会の創設にも関わりました。愛知県及び県内市町の特別支援教育体制づくりでは、特別支援教育コーディネーター研修ははじめ各種の研修や巡回指導に関わってきました。これら教育行政や現場のニーズに大学として少しでも応えようと、本学生涯発達研究所長として、「発達障がいフォーラム」など地域との協働を大切にした事業に取り組んできました。2010年10月には、日本LD学会第19回大会を本学会を会場に、私が大会長として開催し、皆様のご協力のおかげで大成功をおさめることができました。

これらを通して、沢山の方々と知りあいになることができました。これからは、これまで私が地域のいろんな人たちと手をつないで取り組んできた「財産」を少しでも会の活動に活かし、発達障がい児・者の生涯支援のために、乳幼児期の療育・保育、学校教育、福祉・就労支援など各関係者のみなさんとの連携・協働をいっそう強めながら、地域に根ざす特別支援教育の実践・研究の発展に尽くして参ります。会員のみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。



花熊 暁先生の講演会

「特別支援教育と発達障害支援の今日的課題」

～ 長期的な視点に立った学校・園での教育支援 ～



平成24年5月12日（土）に行われました、第7回定期総会記念講演は、愛媛大学の花熊 暁先生を講師にお迎えし、「特別支援教育と発達障害支援の今日的課題 ～長期的な視点に立った学校・園での教育支援～」というタイトルでご講演をいただきました。花熊先生は、今年度より愛媛大学教育学部附属特別支援学校の校長も兼務され、大変お忙しいところ遠方よりお越しいただきました。講演は、ちょっとしたエピソードから始まりました。それは、「愛媛」も「愛知」も「愛」が付く事から、愛媛大学教育学部附属特別支援学校の40周年記念式典のために準備した校旗が間違っ

て愛知県に送られてしまったというものでした。

Part 1 「社会的自立・就労から見た発達障害支援の課題」

青年・成人期を迎えた発達障害の人たちの課題として、適応行動の問題がある。企業が障がいのある人に求めるものは、仕事に必要なスキル（技能）というよりも「社会人としての基本」と「勤労感・労働意欲」であるが、学校・園や家庭では、今の大きな問題がなければ良しとされ、目の前の課題（例：教科学習の達成）にばかり目が行って、必要な生活行動を身につけることへの意識が薄くなってしない

がちである。青年・成人期を見据えた長期的な視点に立った取り組みが必要である。キャリア教育とは、就労準備教育ではない。キャリア発達は年少期から始まるものである。

Part 2 「長期的な視点に立った発達障害支援の具体的な目標について」

障がいに関係なく、日常生活や社会生活を送る上で、誰もが身につけていなければならない行動（挨拶・身だしなみ等）を年齢に応じて身に付けることが必要である。年齢に応じて身に付くのではなく、年齢に応じて教えなければ身に付かない。また、体力をつけること、自分の見たい目を意識すること、自分のことは自分でする経験、自分の役割をもたせること、セルフエスティーム（自尊感情・自己肯定感）を育てることが大切である。

- 1 社会生活を送る上で、また、充実した人生を送る上で必要なことは、障がいのあるなしに関係しない。
- 2 社会的自立のためには、概念的スキルだけでなく、社会的スキルと実生活スキルを身に付けることと、「自分の存在価値」を含めたセルフエスティームを育てることが大切である。
- 3 社会的自立のための準備は、年齢が小さな時から始める必要がある。

15:00~16:30までの90分間、大変熱のこもった講演をしていただき、あっという間に時間が過ぎてしまったという印象でした。参加者からは、「長期的視点に立って、年齢に応じたというのが大切であることがわかった。」「日々の指導・支援の目標を再確認できた。」「明日から、またがんばろうと言う気持ちにさせてもらった。」という感想が多く聞かれ大変好評でした。

平成24年 事務局紹介

☆ 事務局長 （加藤 昌子）

今まで研究会の企画でいろいろと勉強させてもらいました。この研究会は、会員の皆様のものですから、ぜひ積極的な参加とご意見を寄せていただきたいと思います。皆さんでより良い研究会にしていきましょう。至らないことが多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

☆ 事務局次長 （小濱 眞奈美）

昨年に引き続き、事務局をさせていただきます。この機会に多くの方々と交流できればと思っています。よろしくお願いいたします。

☆ 事務局 （宇野美岐子）

通級指導教室「津島市ことばの教室」の担当をして12年目となりました。その間、いろいろな個性を持った子どもたちと出会い、保護者の方と先生方とまた、医療機関の方々と相談して歩んでいます。困ったときに助け合えるような会になればと思います。1年間、よろしくお願いいたします。

☆ 事務局 （松井 京子）

会計を担当することになりました。旅をこよなく愛す自分は、遠方で開催される研修を楽しみに変えてスキルアップに努めます。よろしくお願いいたします。

☆ 事務局 （亀井 昌俊）

HPを担当することになりました。情報を早く提供していこうと思います。1年間よろしくお願いいたします。